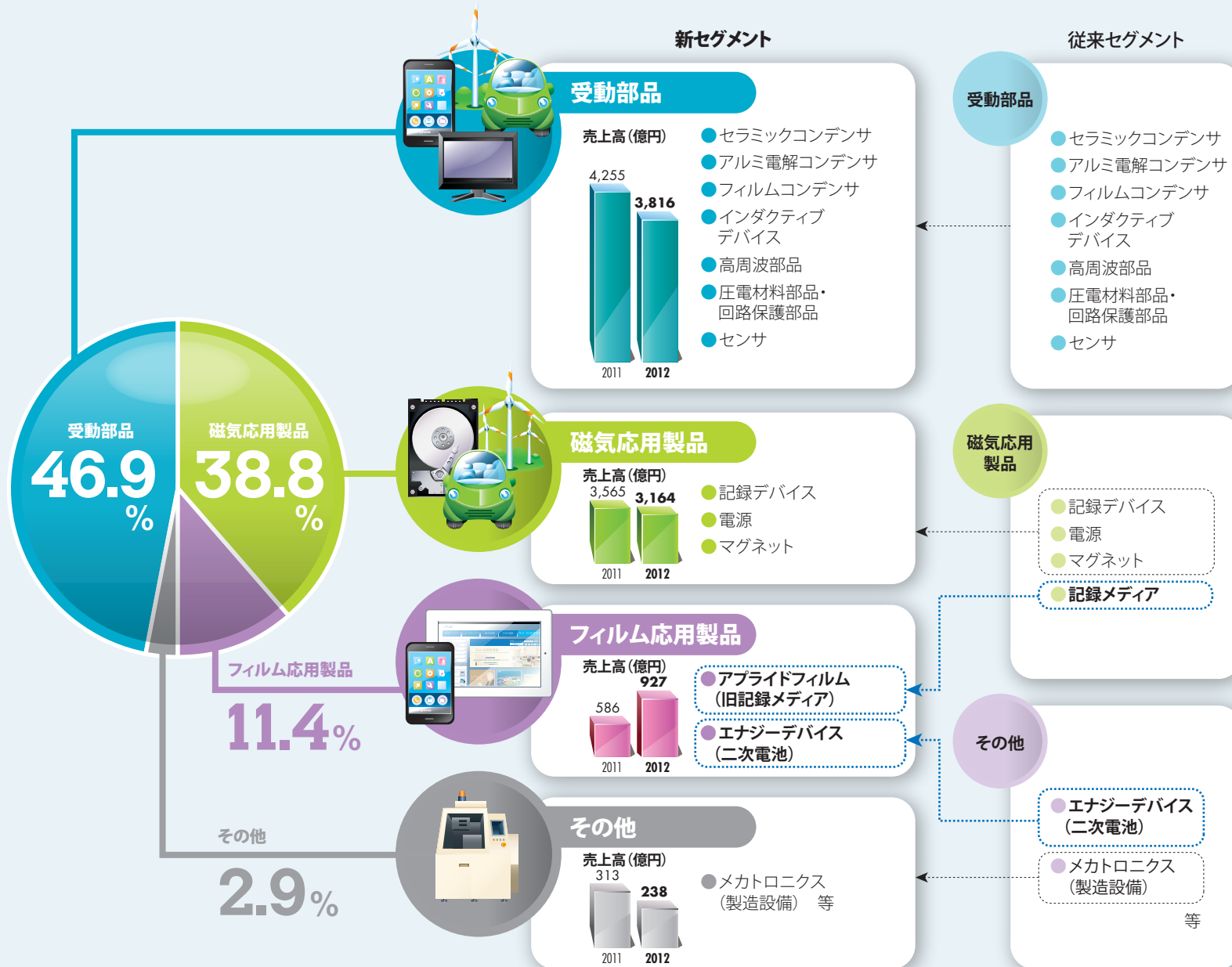


営業概況



2012年3月期におけるTDKグループの売上高は8,144億97百万円（前期比6.6%減）となり、営業利益は186億87百万円（前期比70.9%減）となりました。エレクトロニクス市場は、セット製品（最終財）によって状況が大きく異なりました。スマートフォンを中心とする携帯電話とタブレット端末は、生産水準が大きく向上しました。ハイブリッド自動車と電気自動車も、引き続き堅調に推移しました。一方、薄型テレビやパーソナルコンピュータは、低水準で推移しました。ハードディスクドライブ（HDD）もタイの洪水被害により、生産が減少しました。なお、従来は磁気応用製品に属していた「記録メディア」の主要製品が機能性フィルム製品へシフトしていることから名称を「アプライドフィルム」と変更し、コア技術と市場などに類似性がある「エナジーデバイス」とともに、当期から新たな報告セグメント「フィルム応用製品」として分類しました。

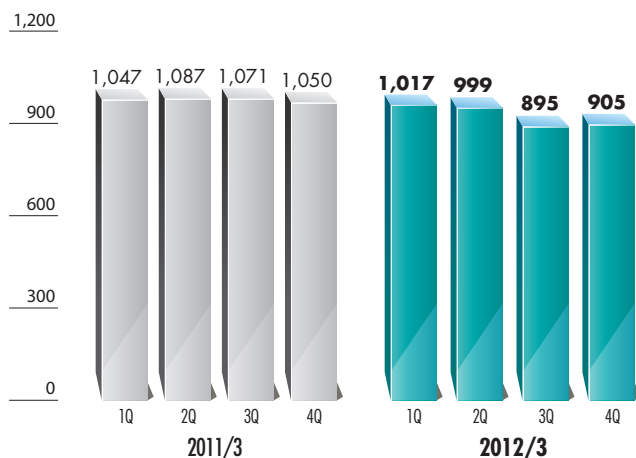


営業概況

受動部品

当事業は「コンデンサ」「インダクティブデバイス」「その他受動部品」から構成されます。「コンデンサ」には、セラミックコンデンサ、アルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサが含まれ、「その他受動部品」には、高周波部品や圧電材料部品・回路保護部品及びセンサが含まれます。

売上高 (億円/四半期)



自動車市場で需要が拡大した一方で情報家電市場と通信機器市場の低迷で、前期比10.3%の減収となりました。

2012年3月期の当事業全体の売上高は、3,815億76百万円(前期比10.3%減)、営業利益は66億10百万円の赤字(前期比310億93百万円減)となりました。製品区分ごとの業績は下記のとおりです。

コンデンサ

産業機器市場及び自動車市場向けのアルミ電解コンデンサとフィルムコンデンサの販売が増加しました。一方、主に情報家電市場向けのセラミックコンデンサの販売が減少しました。

その結果、売上高は1,223億64百万円(前期比9.0%減)となりました。

インダクティブデバイス

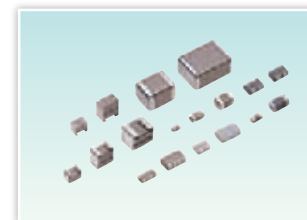
自動車市場向けの販売は増加したものの、情報家電市場向けの販売が減少しました。

その結果、売上高は1,212億1百万円(前期比6.9%減)となりました。

その他受動部品

高周波部品の販売は、主に通信機器市場向けで減少しました。また、圧電材料部品・回路保護部品の販売は、産業機器市場向けで減少しました。

その結果、売上高は1,280億11百万円(前期比14.6%減)となりました。



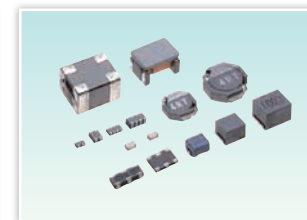
セラミックコンデンサ



アルミ電解コンデンサ



フィルムコンデンサ



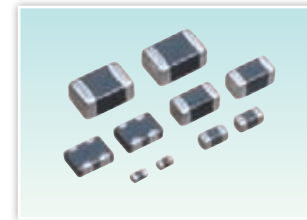
インダクティブデバイス



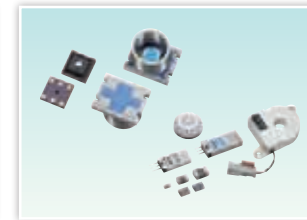
高周波部品・モジュール



圧電材料部品



回路保護部品



センサ

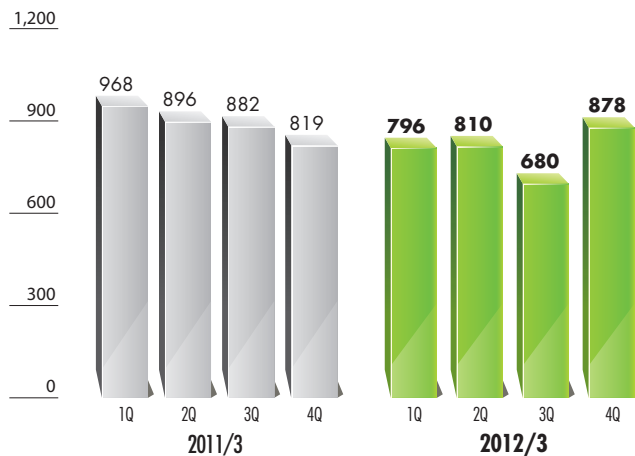
営業概況

磁気応用製品

当事業はHDD用ヘッドなどを含む「記録デバイス」と電源とマグネットを含む「その他磁気応用製品」から構成されます。



売上高 (億円/四半期)



自動車市場向けのその他磁気応用製品の販売が好調だったものの、HDD用記録デバイスの販売が減少し、前期比11.2%の減収となりました。

2012年3月期の当事業全体の売上高は、3,164億2百万円(前期比11.2%減)、営業利益は390億28百万円(前期比123億97百万円減)となりました。製品区分ごとの業績は下記のとおりです。

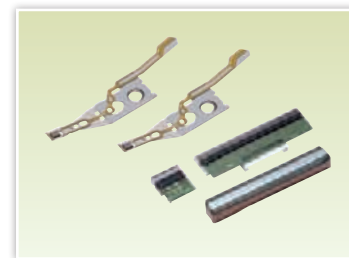
記録デバイス

タイの洪水被害によるHDD生産の減少にともない、主要製品であるHDD用ヘッドの販売数量が減少しました。また、HDD用サスペンションについては、タイの工場が被災したため、生産及び販売数量が減少しました。さらに、売価下落と米ドルに対する円高の影響を受けたことで、売上高は2,087億28百万円(前期比18.9%減)となりました。

その他磁気応用製品

電源の販売は、産業機器市場向けで減少したものの、自動車市場向けで増加しました。マグネットは、自動車市場向けの販売を中心として堅調に推移しました。

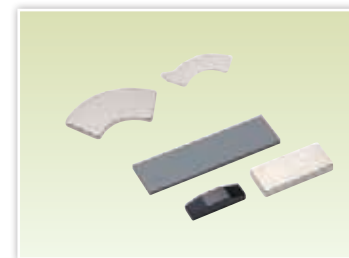
その結果、売上高は1,076億74百万円(前期比8.8%増)となりました。



記録デバイス



電源



マグネット

営業概況

フィルム
応用製品



当事業は「エナジーデバイス(二次電池)」と、旧記録メディアの「アプライドフィルム」で構成されます。

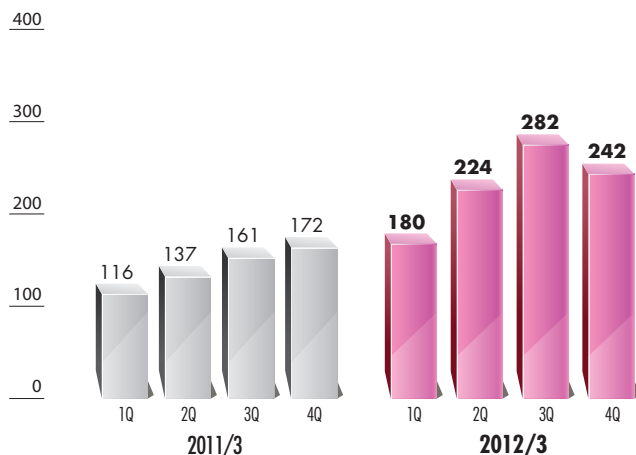
通信機器市場と情報家電市場の売上が大きく拡大したことで
前期比58.2%の増収となりました。

2012年3月期の当事業の売上高は、927億27百万円(前期比58.2%増)、営業利益は62億55百万円(前期比50億44百万円減)となりました。

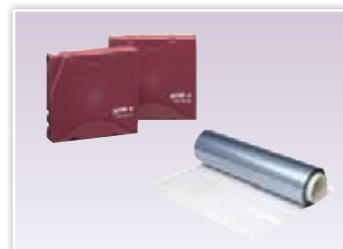
二次電池であるエナジーデバイスの販売は、スマートフォンやタブレット端末を中心とした通信機器市場及び情報家電市場向けの販売が大幅に増加しました。

アプライドフィルムは、これまで磁気応用製品に属していた記録メディアで一部製品が終息したこと、リチウム電池の材料であるセパレータ事業が加わったことによって主要製品が機能性フィルム製品へシフトしていることから新たに分類したもので、当期は通信機器市場向けの販売が増加しました。

売上高(億円/四半期)



エナジーデバイス(二次電池)



アプライドフィルム

その他



当事業は、「メカトロニクス(製造設備)」等で構成されています。

2012年3月期の当事業の売上高は、237億92百万円(前期比24.1%減)、営業利益は48億39百万円の赤字(前期比53億44百万円減)となりました。

売上高(億円/四半期)

